

平成 28 年度南予地方局予算の実施状況(H29.3.31 現在)

1. 予算事項名 南予津波避難行動促進事業費
2. 事業期間 平成 28 年度～平成 29 年度
3. 所 管 総務企画部総務県民課
4. 事業概要

南海トラフ巨大地震が発生した際に大きな津波被害が予想される宇和海沿岸において、『率先避難者』となり得る中・高生を中心とした共助による避難モデルを構築し、連携した組織づくりを行うことにより、地域としての防災力強化を目指す。

(予算額) 28 年度 713 千円

(1) 合同避難事前ワークショップ事業

合同避難訓練実施前に、小・中学校の津波避難連携の可能性や、従来の訓練の問題点などについて検討を行った。

- ・避難場所、避難経路の再検討
- ・避難に際して、どのようなことを考慮すべきか
- ・中学生が協力できることは何か など

【講師】(一財)消防防災科学センター 防災図上訓練指導員 毛利 泰明 氏

(2) 合同避難訓練事業

南海トラフ巨大地震により巨大津波が発生したことを想定し、浸水想定区域外へ合同で避難。併せて、中学生は『率先避難者』としての行動をとることができるか、検証を行った。

【講師】消防防災科学センター 毛利 泰明 氏

なお、訓練後には防災に関する基調講演と避難行動に関する意見交換会を実施。

基調講演：「津波から一人でも多くの命を助けるために」

【講師】兵庫県立大学防災教育研究センター准教授 紅谷 昇平 氏

【講師】消防防災科学センター 毛利 泰明 氏

(3) 合同避難訓練事後事業

・次回の避難訓練に活かすため、避難訓練の検証や、課題の抽出・検討を行った。

5. 28 年度の事業実施状況

【宇和島市】 鶴島小学校 & 城南中学校

合同避難事前ワークショップ事業

(6月 21 日・城南中学校)



生徒・教諭・地域住民 約 290 名

合同避難訓練事業

(7月 4 日・鶴島小、城南中)



児童・生徒等 約 500 名

普段避難する城山の公園から、市内の高台(浸水想定外区域)へ避難先を変更し検証

基調講演
(7月4日・鶴島小、城南中)



児童・生徒・教諭 約 310 名

意見交換会
(7月4日鶴島小、城南中)



児童・生徒・教諭 約 310 名

合同避難事後ワークショップ
(7月14日)城南中
(9月6日)鶴島小



7/14 生徒・教諭等 約 270 名
9/6 児童・教諭等 約 200 名

【八幡浜市】 真穴小学校&真穴中学校

合同避難事前ワークショップ事業
(9月23日・真穴小)



生徒・教諭・地域住民 約 90 名

合同避難訓練事業
(10月13日・真穴小、真穴中)



児童・生徒・教諭・地域住民等 約 100 名

避難場所の学校グラウンドは浸水想定区域外だが今回さらに高台の裏山まで避難

基調講演
(10月13日・真穴小、真穴中)



児童・生徒・教諭 約 90 名

意見交換会
(10月13日・真穴小、真穴中)



児童・生徒・教諭 約 90 名

合同避難事後ワークショップ
(10月20日真穴小)



児童・生徒・教諭 約 90 名

6. 事業実施後の状況

- ・訓練に参加した学校においては、訓練後の検証を活かし、想定外の状況に備えた避難先および避難経路についての検討が行われている。
- ・真穴小、中については裏山への避難路が整備されることとなった。